キャラクター名: 鵲　伊吹（かささぎ・いぶき）

プレイヤー名:

シンドローム	キュマイラ ブラム＝ストーカー	ワークス	セカンダリA	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	18	性別	男
覚醒	渇望	衝動	殺戮	初期侵食率	35 %
出自	双子	経験	喪失	邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	1	0			5
感覚	2		0			2
精神	1		0			1
社会	1		0			1

HP	31
行動値	5
(非装備時)	5
戦闘移動	10
全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚			意志	2		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
「零れ落ちる一片」	白兵	11r+1		9		
100%↑「両輪の華咲く」	白兵	12r+1		10		ダメージ+6D、クリンナップに40点HP失う

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
変性：凶獣	P	N		
PC4	P 連帯感	N 食傷		
勅使ヶ原 禊（てしがわら みそぎ）	P 好意	N 悔悟		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	2	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセ	2	2	メジャー					
効果：								
鮮血の一撃	5	2	メジャー					
効果：	判定ダイス+[lv+1]個。HP2点消費。							
鮮血の修羅	3	6	メジャー				120%	
効果：	1点でもダメージを与えた場合、対象はクリンナップにHPを[lv×10]点失う							
破壊の爪	1	3	マイナー					
効果：	素手データ変更。命中0、攻撃+[lv+8]、ガード値1							
ハンティングスタイル	1	1	マイナー					
効果：	戦闘移動。離脱再突入可。シーンlv回。							
殺戮の獣牙	3	6	マイナー				120%	
効果：	ラウンド中、白兵攻撃のダメージ+[lv+2]D。HP5点失う。シナリオ1回。							
巨獣の爪牙	1	2D10	マイナー				120%	
効果：	メインプロセスで素手による白兵攻撃のメジャーを2回行う。シナリオ1回。							
かしずく歯車	★							
効果：								
鋭敏感覚	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

UGNエージェント。セカンダリ。
高校2年生。1年弱の凍結期間のため休学しており、年齢は18歳。
鵲 茅花の双子の弟。
気が強いわけではないがどこか頑固で、気が弱いわけではないが少し押しに弱い、普通の男子高校生。
特に姉、または年上の女性からの圧には弱い。
けれど、誰であろうと譲れない部分は、絶対に曲げない。譲れない部分は、そう多くはないけれど。
「いやまった、それはダメ。人に迷惑をかけるのはよくない。
　俺が迷惑なだけならともかく、それマジで全然知らん人の迷惑だから」

【固定ロイス：鵲 茅花】
姉。カウンター。
はた迷惑な性格だとは思っているが、迷惑な存在だとは思っていない。
寧ろ、その在り方に、いくばくかの尊敬と、そのやり方に、少しばかりの感謝を、している。
どうあれこうして日常に戻ってこれたのは彼女のお陰。経緯はともかく、結果は有難く受け止めている。
呼称：茅花、あるいは姉
「どーしていっつもそーいうコトするかな姉は……頼むから、もう少し、落ち着いて考えてから――
　いや考えてないワケじゃないんだよな茅花の場合。うーん……」

【固定ロイス；勅使ヶ原　禊（てしがわら・みそぎ）】
数年前にアトアの接種によりプライマリとなった際、エフェクト適性の高さからスカウトされた。
所属した支部で、指導役となったのが3つ年上の先輩、勅使ヶ原　禊だった。
彼女はチルドレン出身の優秀な戦闘員で、プライドが高く、自他ともに厳しいが、面倒見のよい、よき先輩だった。